

シンガポール取引所(SGXL)

デリバティブ商品拡充へ、日経 225 先物指数に連動する総収益率先物(TRF)の金利デリバティブ商品を上場

シンガポール | 証券・商品先物取引 | 業績フォロー

BLOOMBERG SGX:SP | REUTERS SGXL.SI

- 1/24 発表の 2019/6 期 2Q (10-12 月) は、営業収益が前年同期比 9.3%増の 2.24 億 SGD、営業利益が同 10.4%増の 1.10 億 SGD、純利益は同 9.2%増の 9,652 万 SGD。デリバティブが好調に推移した。
- 通期会社計画は、営業費用が 4.45-4.55 億 SGD (前期実績: 4.19 億 SGD)、技術関連の設備投資が 6,000-6,500 万 SGD (同: 6,500 万 SGD)。
- 個別株用 DLC の範囲拡大などデリバティブ商品群の拡充に注力する方針。4/8 には日経 225 先物指数に連動した総収益率先物 (TRF) の金利デリバティブ商品を 5/13 に上場すると発表した。

What is the news ?

1/24発表の2019/6期2Q(10-12月)は、営業収益が前年同期比9.3%増の2.24億SGD、営業利益が同10.4%増の1.10億SGD、純利益は同9.2%増の9,652万SGD。ヘッジ取引に対する機関投資家からの強い需要を背景にデリバティブが好調に推移。一方、世界経済や通商問題への懸念を背景に投資家心理が悪化し、現物市場は低調だった。2Q中、ポストトレードの新規システム構築など技術関連の設備投資として1,380億SGD支出した。

セグメント別の営業収益は以下の通り。①株式・債券関連業務は同12.3%減の8,555万SGD。そのうち上場関連収益は、同6.6%減の1,900万SGD。債券の上場は前年同期の289銘柄から296銘柄へ増加したものの、IPOが3銘柄と前年同期の7銘柄から減少。有価証券トレーディング・クリアリング収益は同12.8%減の4,515万SGD。市場全体の平均売買代金は同14%減の9.8億SGD/日、売買代金合計は同12%減の627億SGD。特に株式の売買代金合計が同14%減の572億SGDと落ち込みが目立った。ポスト・トレードサービス収益は同15.8%減の2,138万SGD。決済金額の減少やDVP手数料率の引き下げが響いた。②デリバティブ関連業務は同35.4%増の1.12億SGD。約定枚数は同23%増の6,000万枚となった。SGX FTSE China A50先物や為替先物が伸びた。③マーケットデータ&コネクティビティ業務は、同6.5%増の2,574万SGD。コロケーションサービスが引き続き伸びた。

How do we view this ?

2019/6通期会社計画は、営業費用が4.45-4.55億SGD(前期実績:4.19億SGD)、技術関連の設備投資が6,000-6,500万SGD(同:6,500万SGD)である。2Q中には、決済サイクルを世界市場と合わせるため、T+3からT+2への変更を行った。同社によると、投資家はより多くの投資機会を模索しており、個別株Daily Leverage Certificates(DLC)などの証券派生商品が関心を集めているもよう。デリバティブ商品群の充実に注力する方針だ。4/8には日経225先物指数に連動した総収益率先物(TRF)の金利デリバティブ商品「SGX Nikkei 225指数TRF」を5/13に上場すると発表。また証券業界と協力して上場企業の株式調査を拡充し、市場の魅力を高める取り組みも行っていく。通期市場予想は、営業収益が同4.3%増の8.80億SGD、当期利益が同3.6%増の3.76億SGD。4/25に2019/6期3Q(1-3月)発表予定。

業績推移

※参考レート 1SGD=82.70円

事業年度	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6F	2020/6F
営業収益(百万SGD)	818	800	844	880	897
当期利益(百万SGD)	349	339	363	376	401
EPS(SGD)	0.33	0.32	0.34	0.35	0.37
PER(倍)	21.97	22.66	21.32	20.77	19.70
BPS(SGD)	0.92	0.97	1.02	1.01	1.07
PBR(倍)	7.88	7.47	7.11	7.18	6.78
配当(SGD)	0.28	0.28	0.30	0.31	0.32
配当利回り(%)	3.86	3.86	4.14	4.28	4.41

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

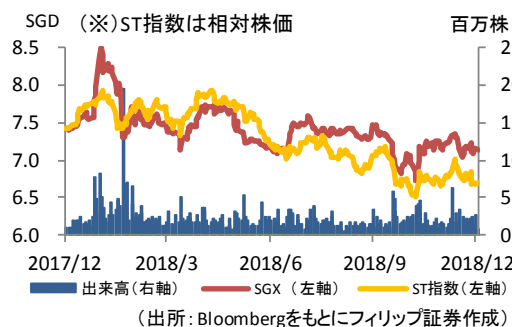
配当予想 (SGD) **0.31** (予想はBloomberg)
 終値 (SGD) **7.25** 2019/4/16

会社概要

1999年設立。アジアを代表する資本市場インフラであり、取引所やクリアリングハウスの所有、運営を行っている。株式、債券からデリバティブ商品までマルチ・アセットに対応しており、上場から取引、清算、決済、保管およびデータサービスまでに至る、総合的なサービスを提供している。上場株式の40%がシンガポール国外の発行体のものであるほか、上場公社債の75%が国外で組成されたものであり、アジアで最も国際化が進んでいる取引所である。デリバティブ商品では、アジアの株価指数やコモディティ、通貨などを原資産とする幅広い取引手段を提供している。中国、インド、日本、アセアンの株式指数を原資産としたデリバティブ商品では、世界で最も流動的なオフショア市場である。また、アジアの清算機関のパイオニアとしてリスクマネジメントや決済キャパシティに世界的に定評があり、世界で初めてBIS支払・決済システム委員会と証券監督者国際機構専門委員会の定めた「金融市場インフラのための原則」(Principles for financial market infrastructures)を採用した取引所である。信用格付けはAAA格。

企業データ(2019/4/17)

ベータ値	0.75
時価総額(百万SGD)	7,810
企業価値=EV(百万SGD)	7,130
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	23.3



主要株主(2019/4)

1.SEL HOLDINGS PTE LTD	(%)	23.37
2.VANGUARD GROUP		2.18
3.ブラックロック		1.73

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

増淵 透吾
 togo.masubuchi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707
 笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

シンガポール取引所(SGXL)

2019年4月17日

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>